

平成 24 年度厚生労働科学研究

**集団予防接種等による B 型肝炎感染拡大の検証
及び再発防止に関する研究**

都道府県、市町村アンケート調査報告書（中間集計）

目 次

1. 調査の概要	1
1.1 調査方法	1
1.2 回収状況	1
2. 都道府県調査	2
2.1 集団予防接種等の手技に関する指導内容.....	2
2.2 集団予防接種等の手技に関する指導方法.....	7
2.3 集団予防接種等の手技に関する実態把握.....	8
2.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告等.....	9
2.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例	10
3. 市町村調査	11
3.1 実施形態	11
3.2 集団予防接種等の手技.....	12
3.3 集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無.....	17
3.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告.....	18
3.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例	19

1. 調査の概要

1.1 調査方法

全国の都道府県（沖縄県除く）及び市町村を対象として、質問紙調査を行った。調査票の配布回収は郵送とした。

調査期間は平成 24 年 11 月 23 日～12 月 14 日とし、ハガキによる督促を行った。

1.2 回収状況

都道府県調査の回収数は、12 月 25 日時点で 40 件（回収率 87.0%）であった。また、市町村調査の回収数は 12 月 17 日時点で 848 件（回収率 49.9%）であった。

※今回は上記について集計を行った中間集計結果を報告する。

	発送数	回収数	回収率
都道府県	46 件	40 件 (12/25 時点)	87.0%
市町村	1,701 件	848 件 (12/17 時点)	49.9%

2. 都道府県調査

2.1 集団予防接種等の手技に関する指導内容

(1) 注射針について（小さい番号の選択肢を優先した集計¹）

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技（注射針）に関する指導内容については、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（95.0%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」と「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」（2.5%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（90.0%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」と「その他」（5.0%）であった。

昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（80.0%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」（15.0%）、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」と「その他」（2.5%）であった。

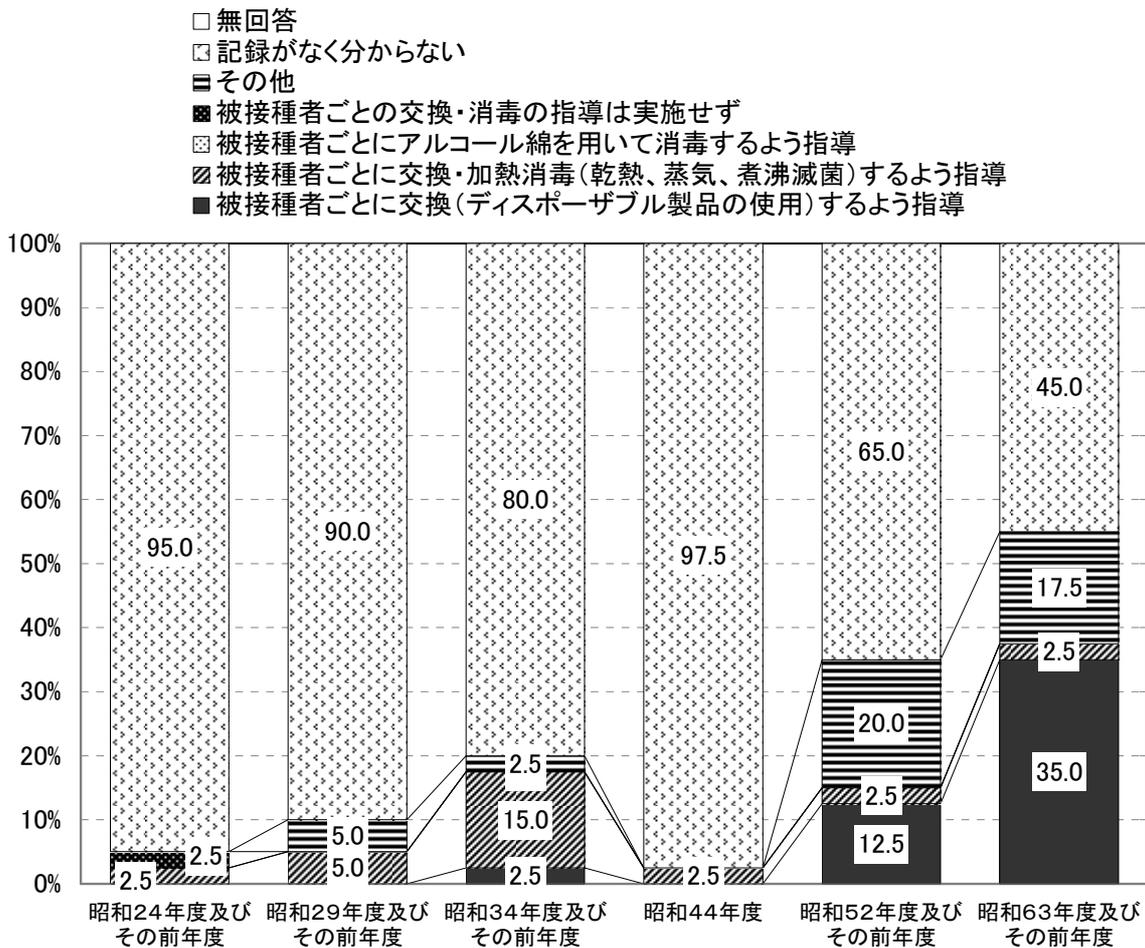
昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（97.5%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」（2.5%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（65.0%）が最も多く、次いで「その他」（20.0%）、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」（12.5%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（45.0%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」（35.0%）、「その他」（17.5%）であった。

¹ 予防接種の種類ごとに状況が異なることを想定し、複数回答を可としたことから、複数回答の場合には回答番号が小さい方の回答を集計している。以下同様。

図 2-1 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射針]



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	40	14	1	0	0	7	18	0
昭和52年度及びその前年度	40	5	1	0	0	8	26	0
昭和44年度	40	0	1	0	0	0	39	0
昭和34年度及びその前年度	40	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	97.5	0.0
昭和29年度及びその前年度	40	2.5	15.0	0.0	0.0	2.5	80.0	0.0
昭和24年度及びその前年度	40	0.0	5.0	0.0	0.0	5.0	90.0	0.0
昭和24年度及びその前年度	40	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	95.0	0.0

(2) 注射筒について（小さい番号の選択肢を優先した集計）

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射筒）については、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（95.0%）が最も多く、次いで「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」（5.0%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（90.0%）が最も多く、次いで「その他」（5.0%）、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」と「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」（2.5%）であった。

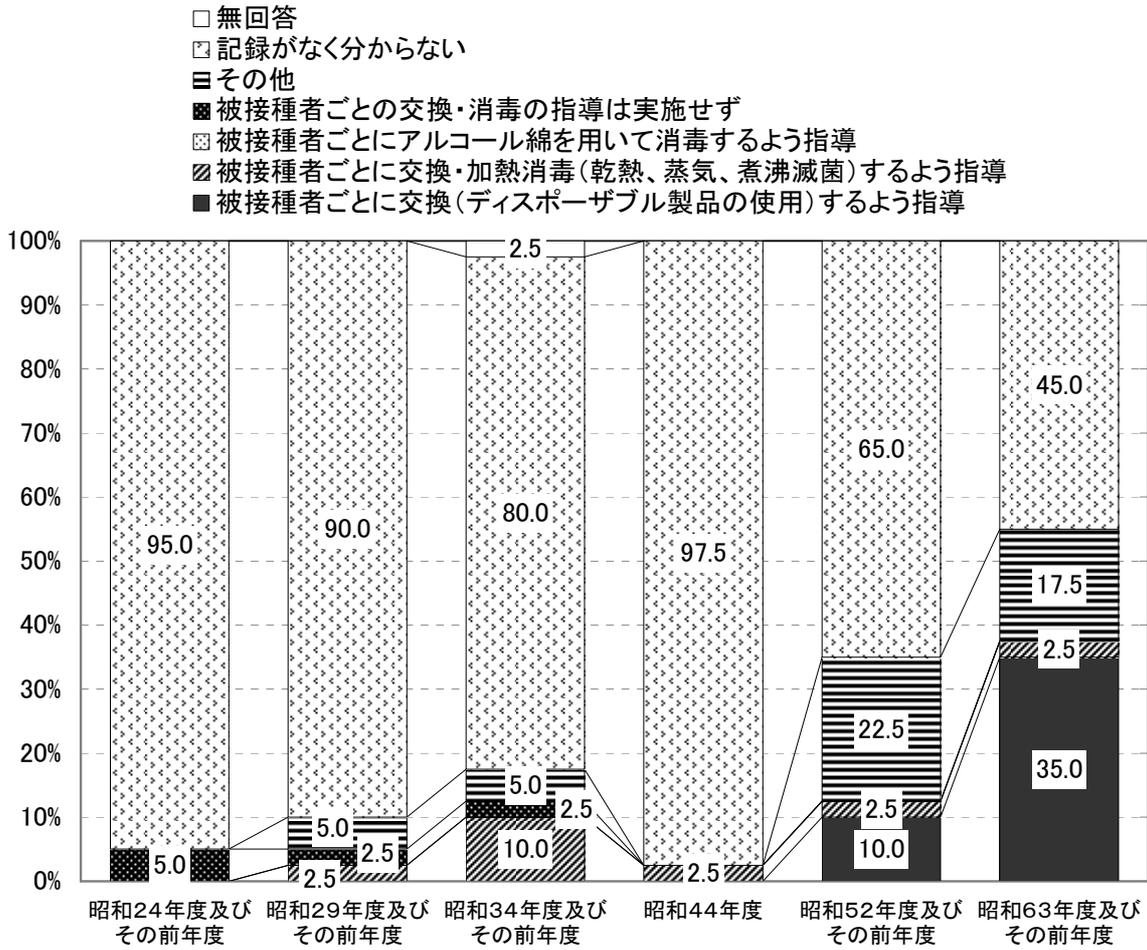
昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（80.0%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」（10.0%）、「その他」（5.0%）、であった。

昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（97.5%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」（2.5%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（65.0%）が最も多く、次いで「その他」（22.5%）、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」（10.0%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（45.0%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」（35.0%）、「その他」（17.5%）であった。

図 2-2 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射筒]

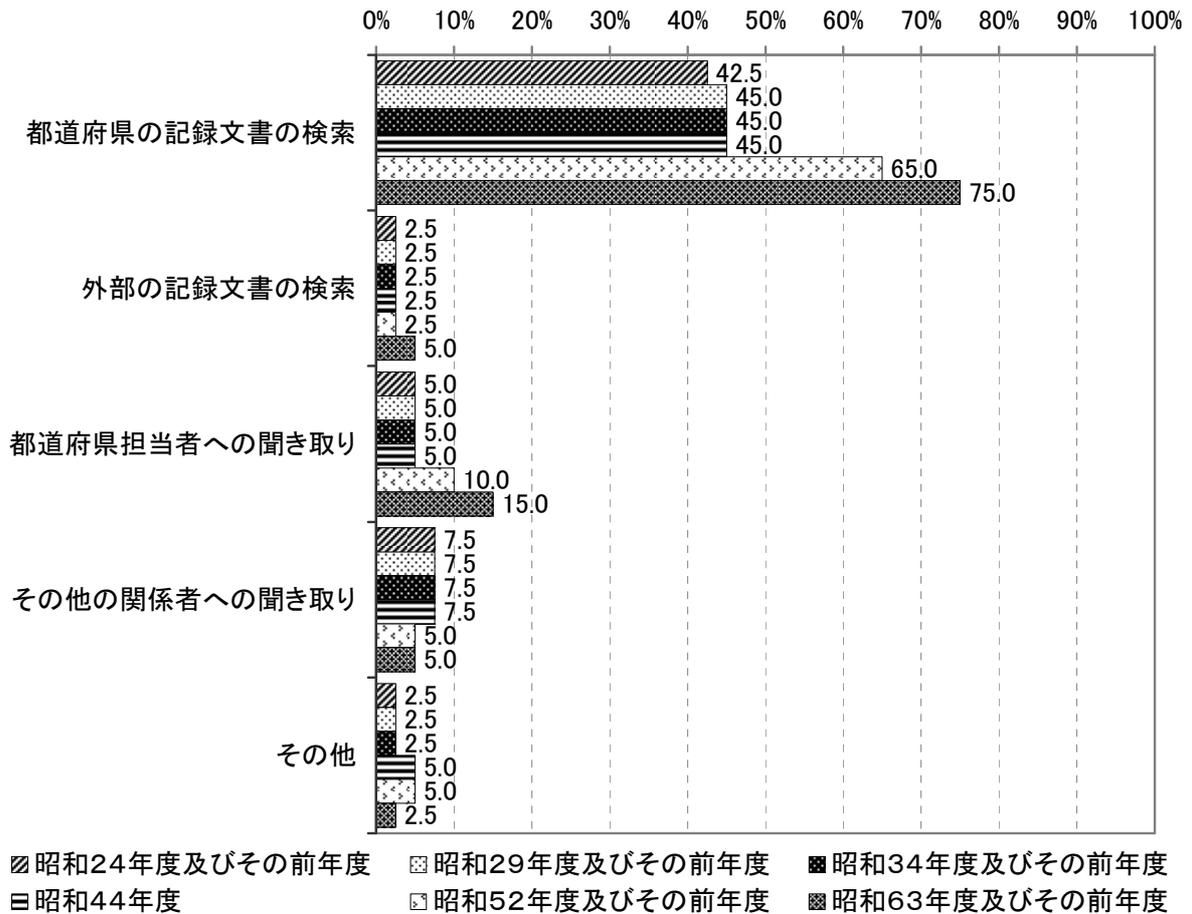


	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	40	14	1	0	0	7	18	0
昭和52年度及びその前年度	40	4	1	0	0	9	26	0
昭和44年度	40	0	1	0	0	0	39	0
昭和34年度及びその前年度	40	0	4	0	1	2	32	1
昭和29年度及びその前年度	40	0	1	0	1	2	36	0
昭和24年度及びその前年度	40	0	0	0	2	0	38	0

(3) 集団予防接種等の手技に関する指導内容の確認方法について

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容の確認方法については、いずれの時期においても「都道府県の記録文書の検索」が最も多く、「昭和24年度及びその前年度」(42.5%)、「昭和29年度及びその前年度」「昭和34年度及びその前年度」「昭和44年度」(45.0%)、「昭和52年度及びその前年度」(65.0%)、「昭和63年度及びその前年度」(75.0%)であった。

図 2-3 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容の確認方法

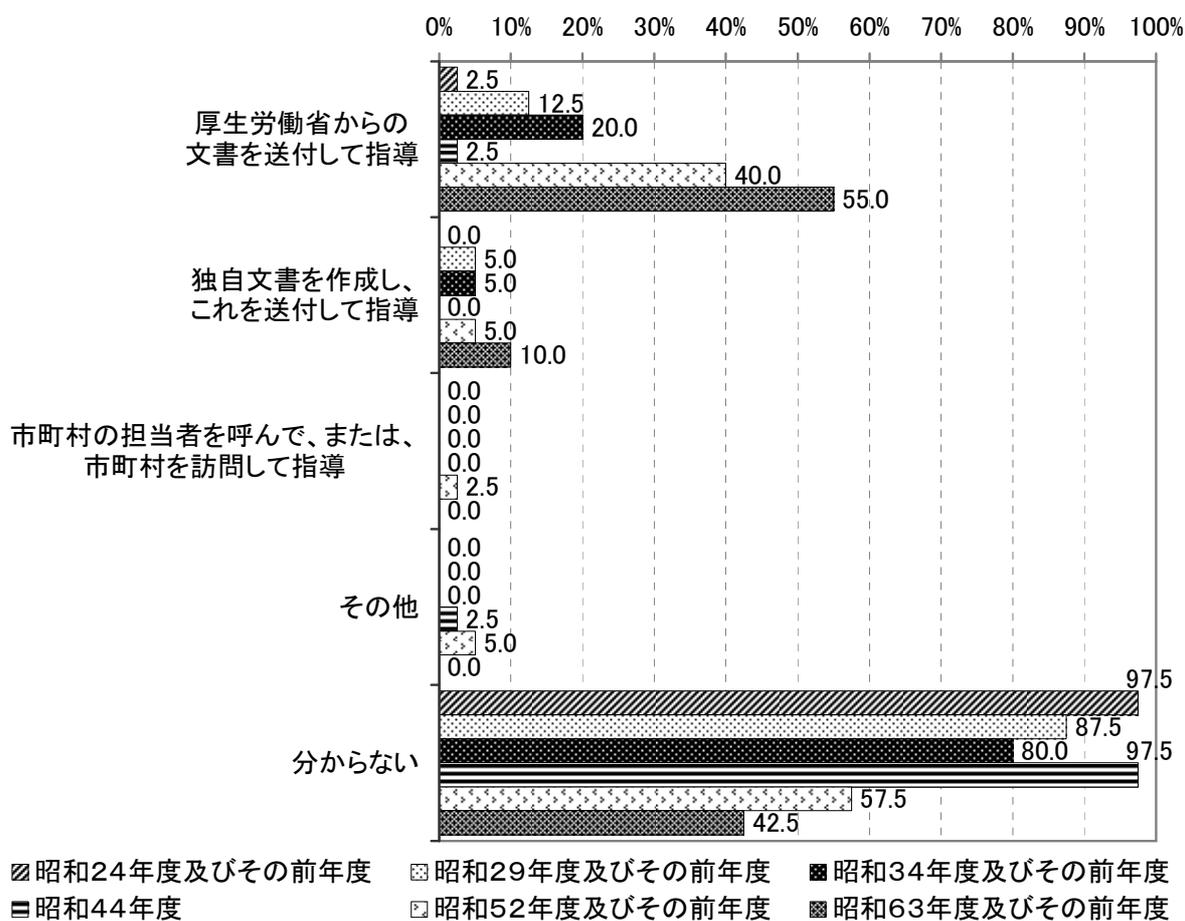


2.2 集団予防接種等の手技に関する指導方法

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導方法については、「分からない」を除くと「厚生労働省からの文書を送付して指導」が最も多く、「昭和 24 年度及びその前年度」(2.5%)、「昭和 29 年度及びその前年度」(12.5%)、「昭和 34 年度及びその前年度」(20.0%)、「昭和 44 年度」(2.5%)、「昭和 52 年度及びその前年度」(40.0%)、「昭和 63 年度及びその前年度」(55.0%)であった。

「独自文書を作成し、これを送付して指導」は、「昭和 29 年度及び前年度」「昭和 34 年度及び前年度」「昭和 52 年度及びその前年度」(5.0%)、「昭和 63 年度及びその前年度」(10.0%)であった。

図 2-4 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導方法

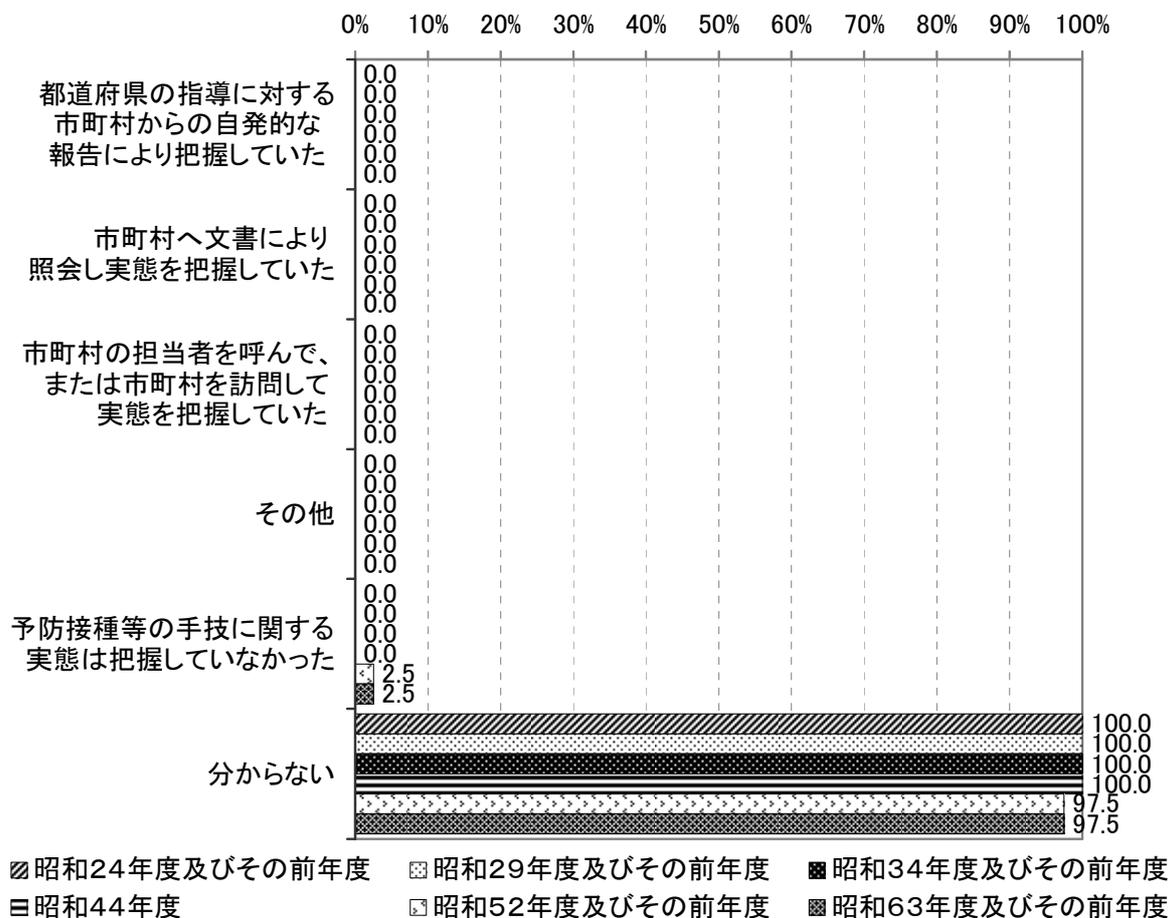


2.3 集団予防接種等の手技に関する実態把握

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態把握については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和 52 年度、63 年度及びその前年度においては、「予防接種等の手技に関する実態は把握していなかった」が 2.5%見られた。

図 2-5 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態把握

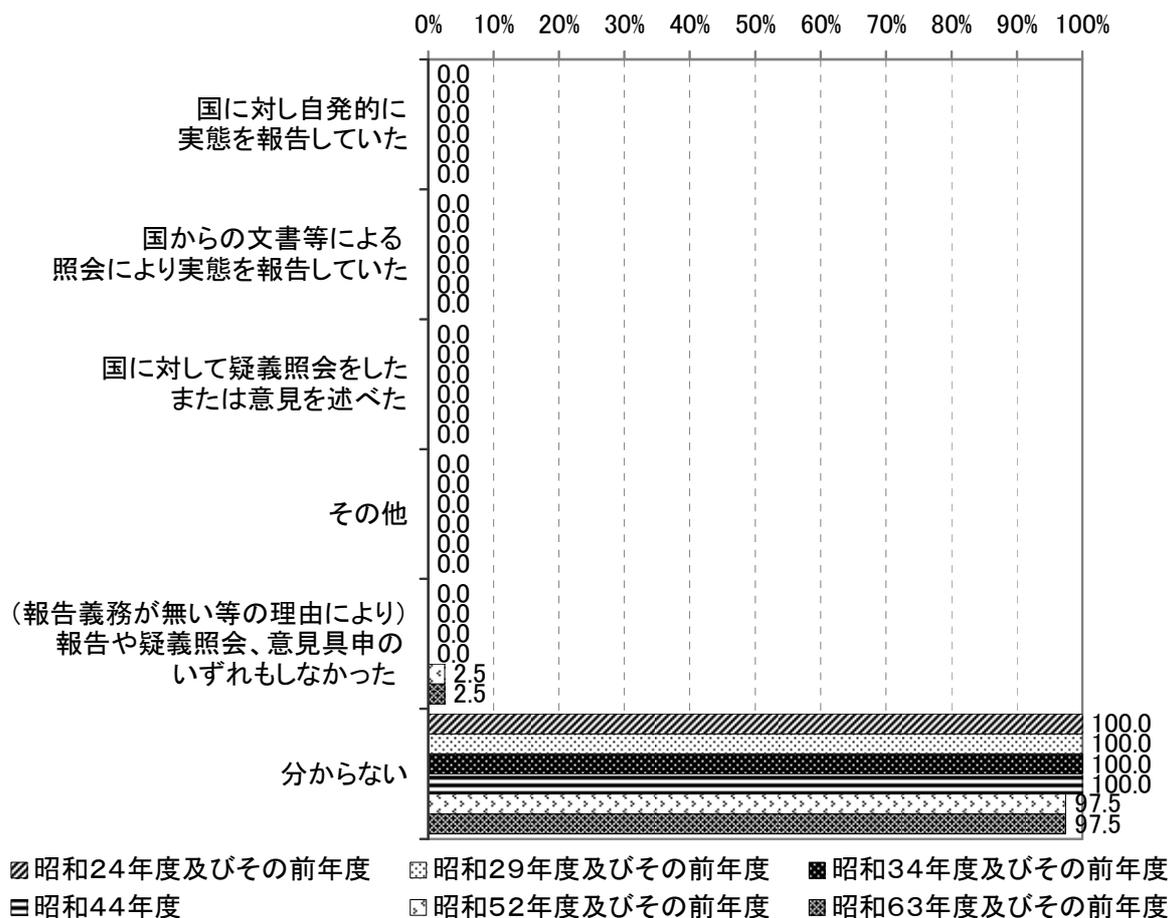


2.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告等

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告等については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和52年度、63年度及びその前年度においては、「(報告義務が無い等の理由により) 報告や疑義照会、意見具申のいずれもしなかった」が2.5%見られた。

図 2-6 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告等

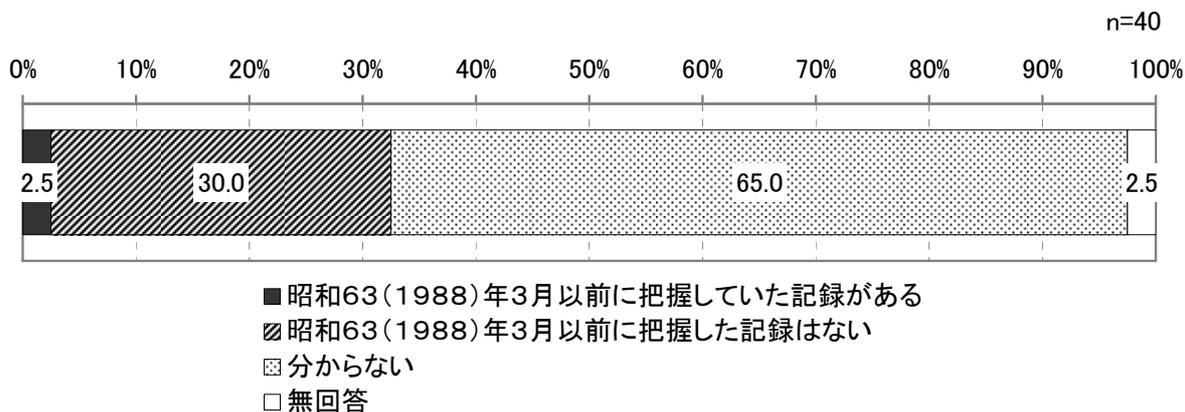


2.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例

(1) 昭和63年3月以前の把握

昭和63年3月以前の把握については、「分からない」(65.0%)が最も多く、次いで「把握した記録はない」(30.0%)、「把握していた記録がある」(2.5%)であった。

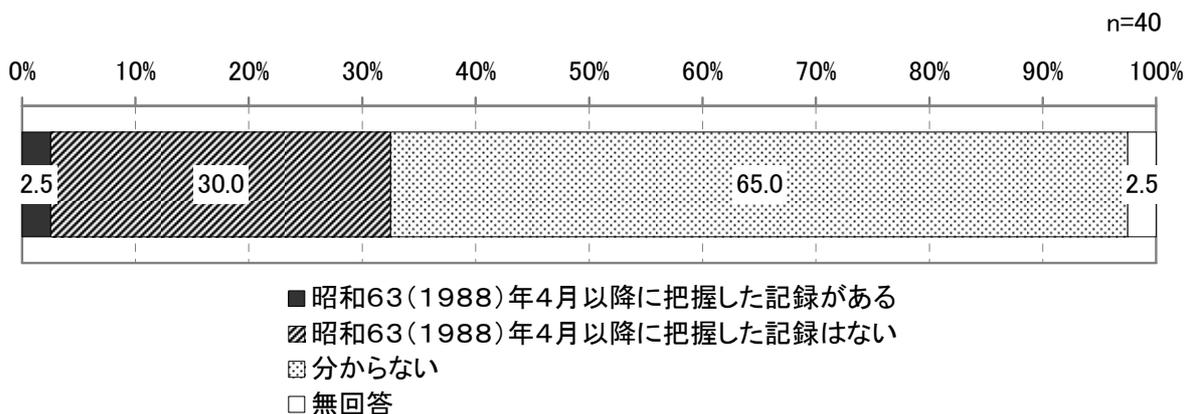
図 2-7 昭和63年3月以前のB型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握



(2) 昭和63年4月以降の把握

昭和63年4月以降の把握については、「分からない」(65.0%)が最も多く、次いで「把握した記録はない」(30.0%)、「把握した記録がある」(2.5%)であった。

図 2-8 昭和63年3月以降のB型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握



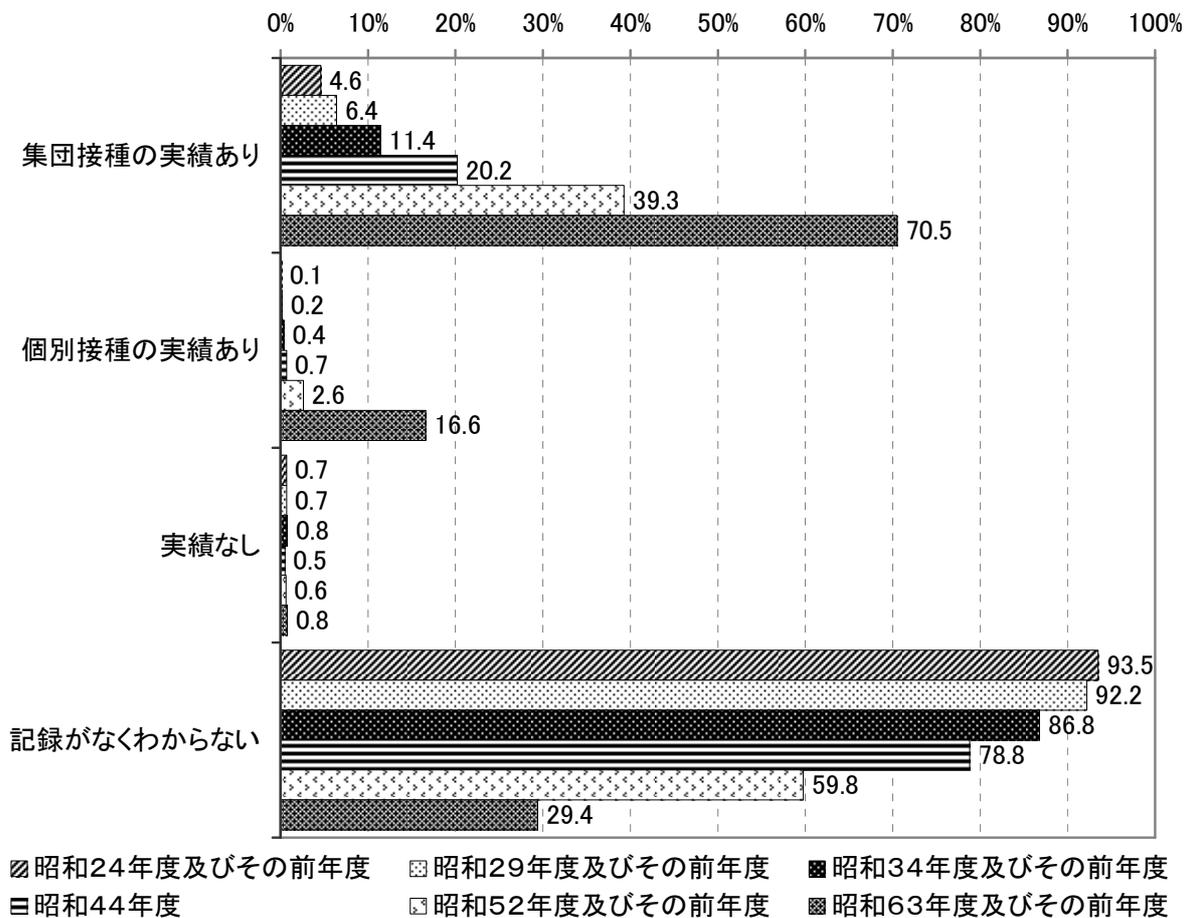
3. 市町村調査

3.1 実施形態

市町村における予防接種の実施形態について、「集団接種の実績あり」は、昭和24年度及びその前年度で4.6%、昭和29年度及びその前年度で6.4%、昭和34年度及びその前年度で11.4%、昭和44年度で20.2%、昭和52年度及びその前年度で39.3%、昭和63年度及びその前年度で70.5%であった。また、「個別接種の実績あり」は昭和63年度で16.6%であった。

昭和24年度～52年度までは「記録がなくわからない」が最も多かった。

図 3-1 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の実施形態



3.2 集団予防接種等の手技

(1) 注射針について（小さい番号の選択肢を優先した集計²）

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射針）について尋ねたところ、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（89.7%）が最も多く、次いで「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（5.1%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（92.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（3.7%）であった。

昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（86.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとの交換・消毒は実施せず」（4.1%）であった。

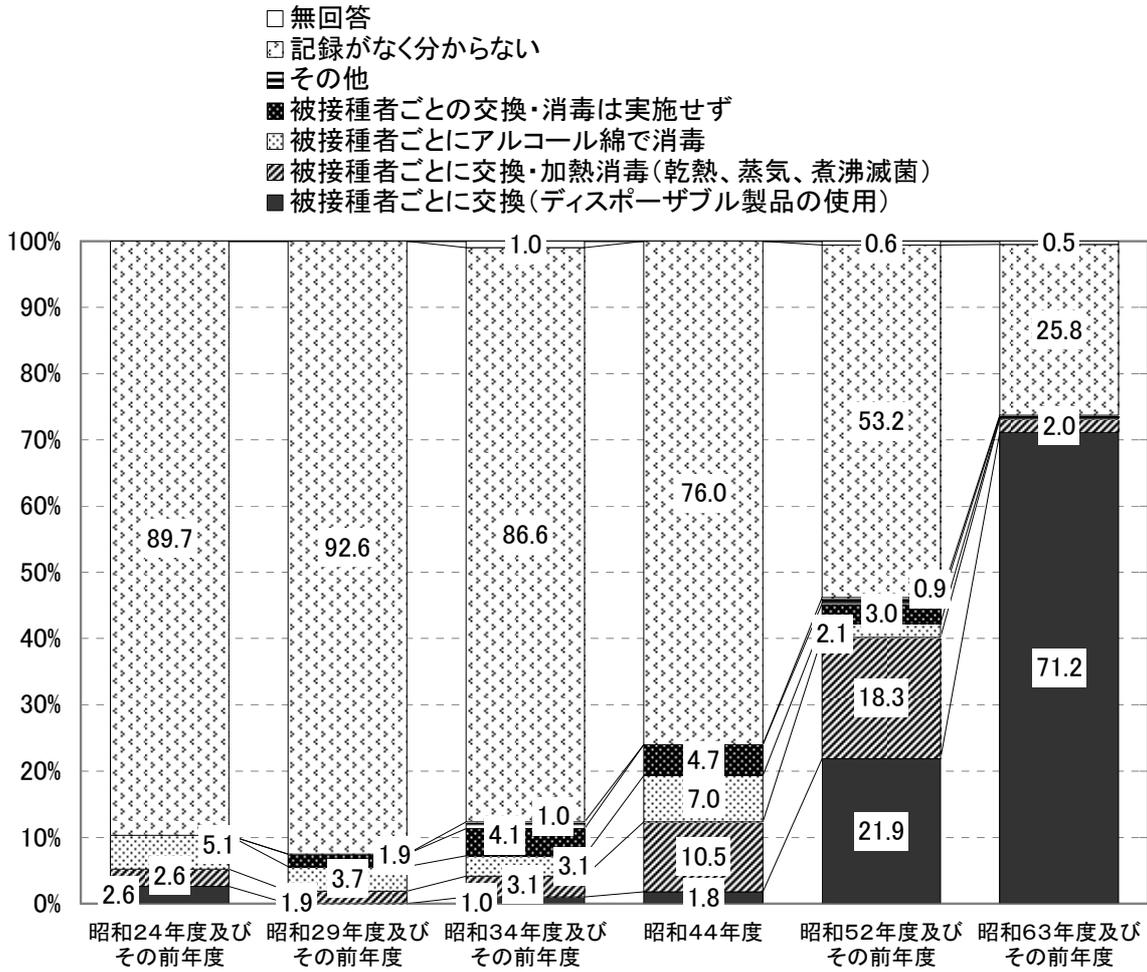
昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（76.0%）が最も多く、次いで「被被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（10.5%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（53.2%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（21.9%）、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（18.3%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（71.2%）が最も多く、次いで「記録がなくわからない」（25.8%）であった。

² 予防接種の種類ごとに状況が異なることを想定し、複数回答を可としたことから、複数回答の場合には回答番号が小さい方の回答を集計している。以下同様。

図 3-2 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射針]



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	598	426	12	1	1	1	154	3
昭和52年度及びその前年度	333	73	61	7	10	3	177	2
昭和44年度	171	3	18	12	8	0	130	0
昭和34年度及びその前年度	97	1	3	3	4	1	84	1
昭和29年度及びその前年度	54	0	1	2	1	0	50	0
昭和24年度及びその前年度	39	1	1	2	0	0	35	0

(2) 注射筒について（小さい番号の選択肢を優先した集計）

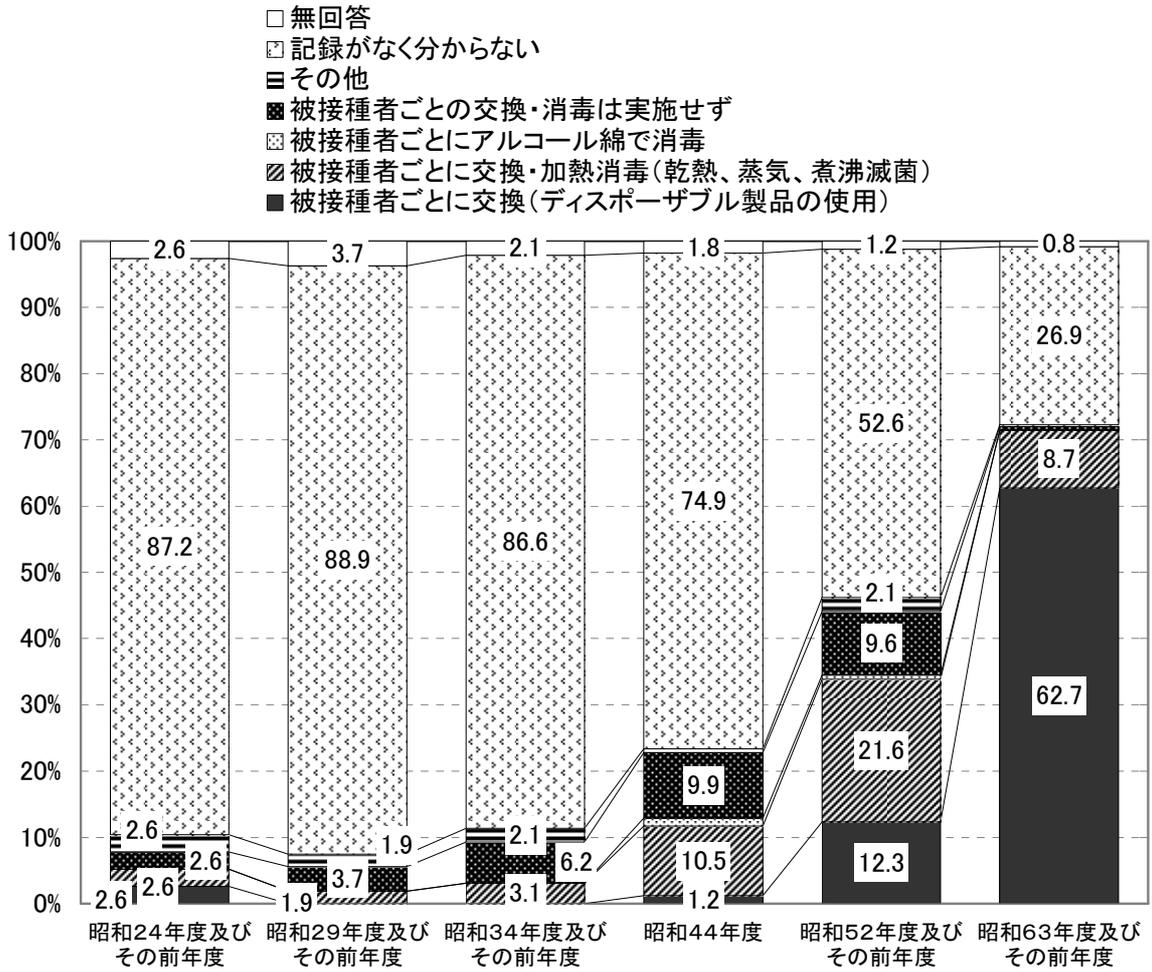
市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射筒）について尋ねたところ、昭和 24、29、34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」が最も多かった。

昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（74.9%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（10.5%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（52.6%）が最も多く、次いで「その他」（22.5%）、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（10.0%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（62.7%）が最も多く、次いで「記録がなくわからない」（26.9%）であった。

図 3-3 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射筒]

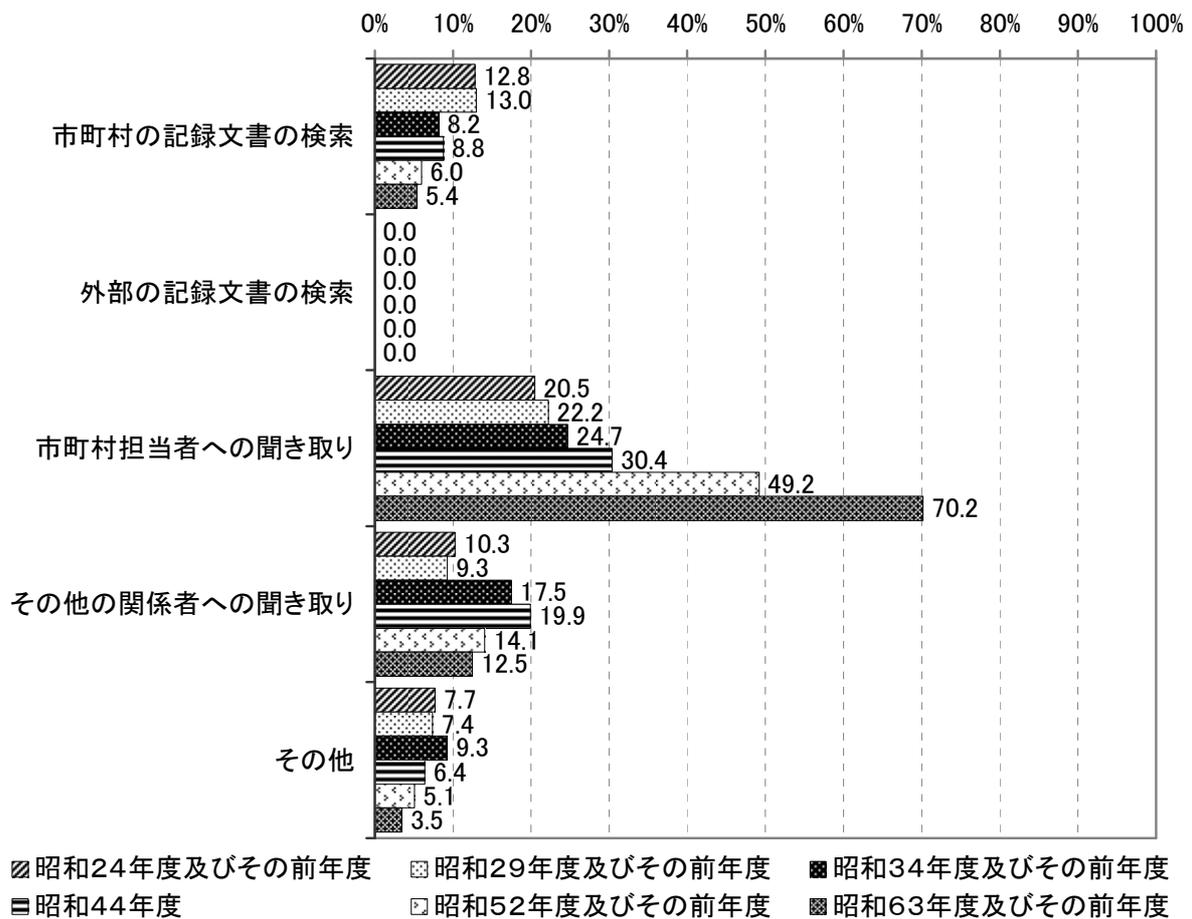


	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	598	375	52	0	3	2	161	5
昭和52年度及びその前年度	333	41	72	2	32	7	175	4
昭和44年度	171	2	18	2	17	1	128	3
昭和34年度及びその前年度	97	0	3	0	6	2	84	2
昭和29年度及びその前年度	54	0	1	0	2	1	48	2
昭和24年度及びその前年度	39	1	1	0	1	1	34	1
		2.6	2.6	0.0	2.6	2.6	87.2	2.6

(3) 集団予防接種等の手技の確認方法

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技の確認方法については、「市町村担当者への聞き取り」が最も多く、「昭和24年度及びその前年度」(20.5%)、「昭和29年度及びその前年度」(22.2%)、「昭和34年度及びその前年度」(24.7%)、「昭和44年度」(30.4%)、「昭和52年度及びその前年度」(49.2%)、「昭和63年度及びその前年度」(70.2%)であった。

図 3-4 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技の確認方法



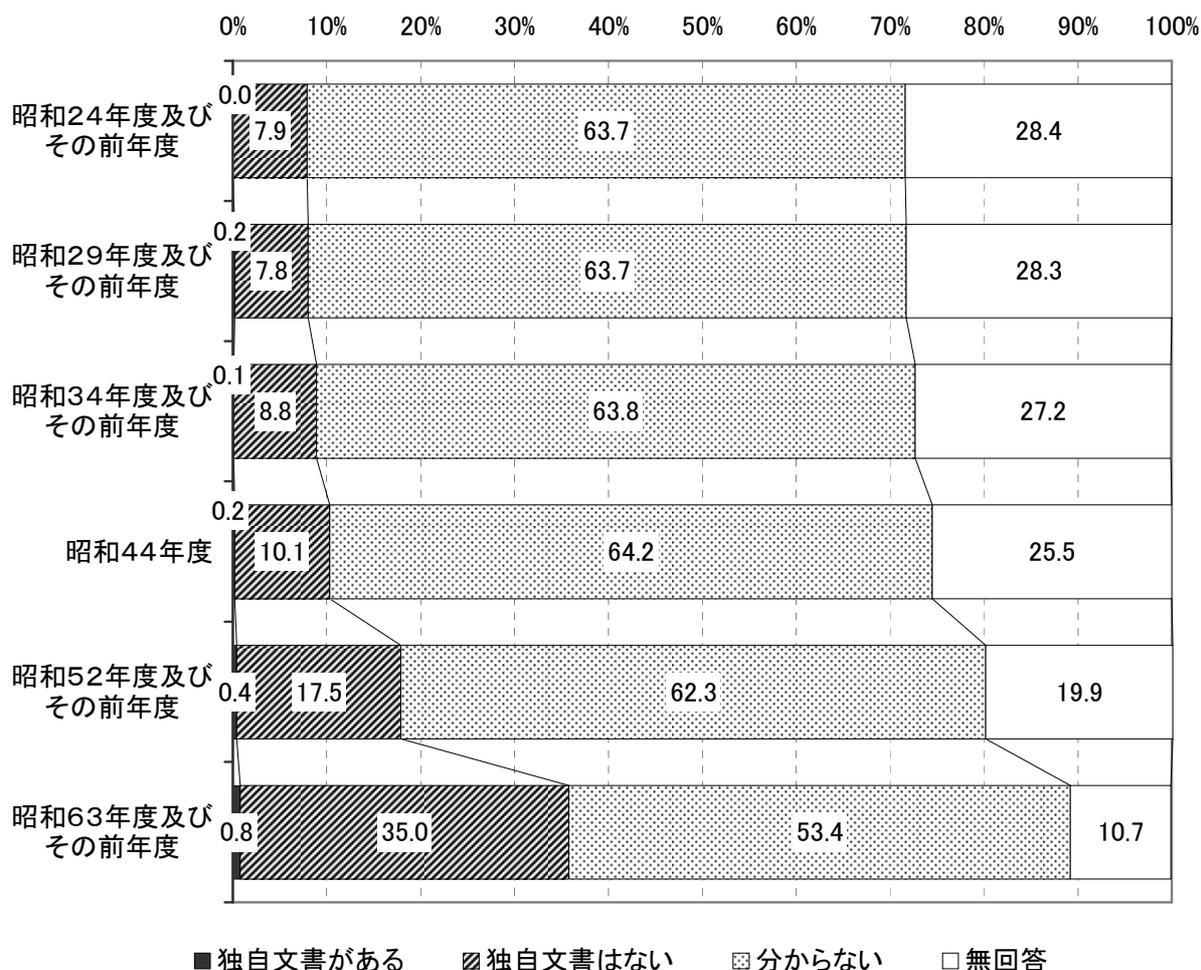
3.3 集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和53年度及びその前年度以降、「独自文書はない」の回答が増え、昭和63年度及びその前年度では、「独自文書はない」が35.0%であった。

一方、昭和63年度及びその前年度でも「独自文書がある」は0.8%であった。

図 3-5 昭和24年度及びその前年度の集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無

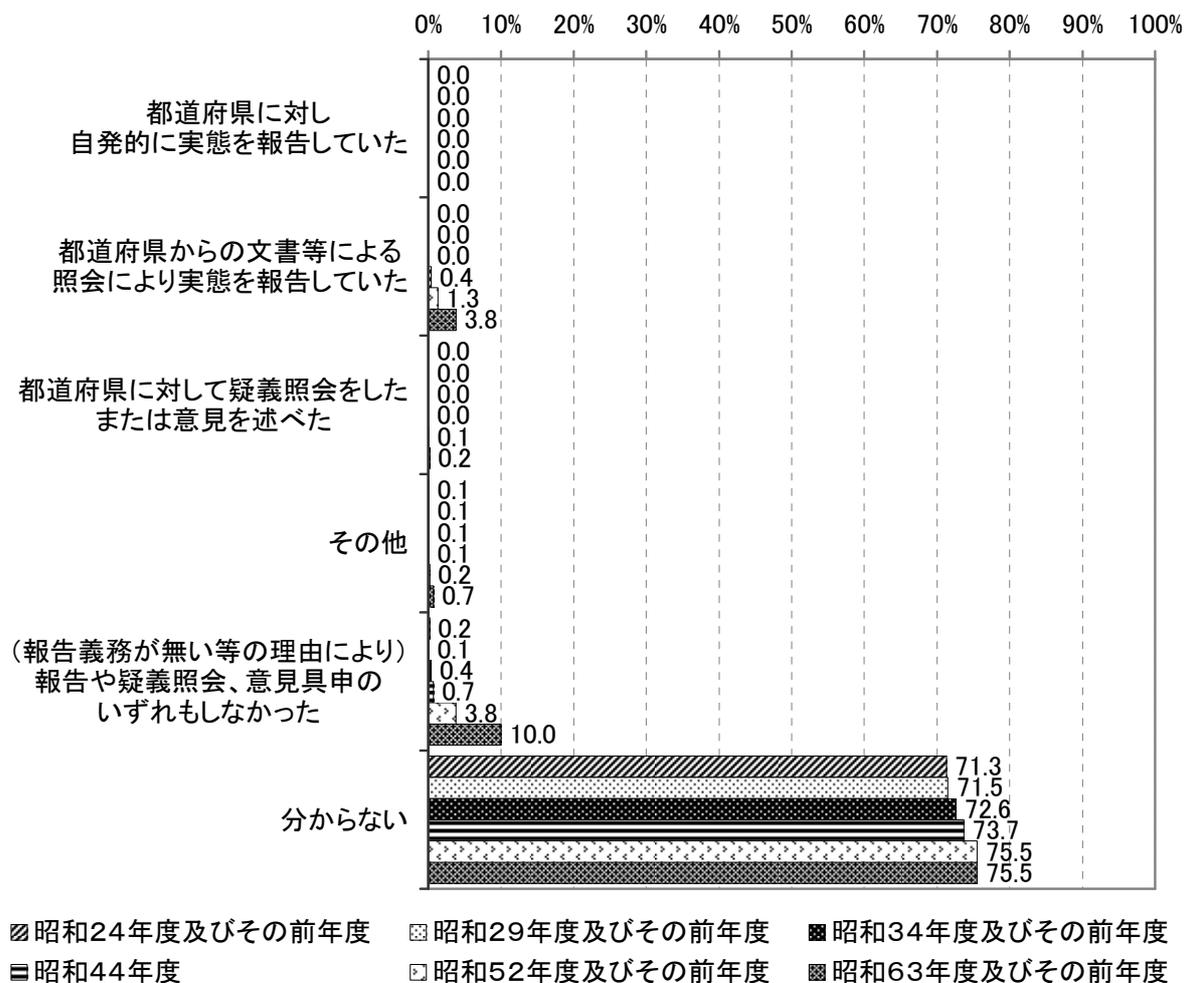


3.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和63年度及びその前年度においては、「(報告義務が無い等の理由により) 報告や疑義照会、意見具申のいずれもしなかった」が10.0%あった。

図 3-6 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告

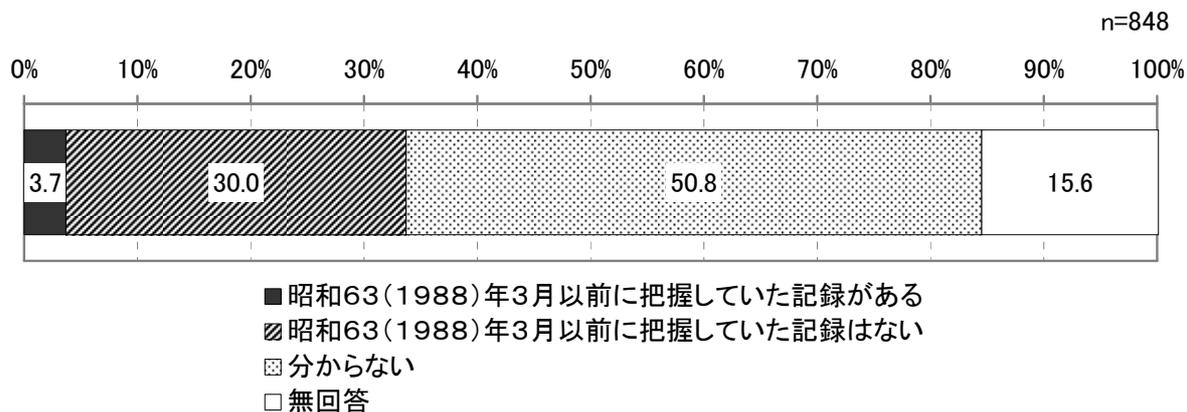


3.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例

(1) 昭和63年3月以前の把握

昭和63年3月以前の把握については、「分からない」(50.8%)が最も多く、次いで「把握していた記録はない」(30.0%)、「把握していた記録がある」(3.7%)であった。

図 3-7 昭和63年3月以前のB型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握



(2) 昭和63年3月以降の把握

昭和63年3月以降の把握については、「分からない」(44.8%)が最も多く、次いで「把握した記録はない」(35.1%)、「把握した記録がある」(4.1%)であった。

図 3-8 昭和63年3月以降のB型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握

